

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和3年3月

事業所名:障害者通所支援事業所ちゅらハウス1号館

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	4		個別支援でも部屋を分けて行っている	建物全体を有効活用。個別指導できる部屋がもう少しあれば良い
	2	職員の配置数は適切である	3	3	2	新しい職員を人を確保する	スタッフの増員。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	5	会議には両側に手すりを設置し必要に応じ見守りや介助を行い安全に配慮に務めている	階段や段差が多い。今後の事を考えバリアフリーを考えたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8			業務終了後、振り返りを行う事で問題点を共有している。	振り返りをする事で意見交換が出来ている。振り返りを毎日業務終了後行っている今後も続けられると良い。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1		アンケートと評価表を活用し保護者のご意見を参考にしスタッフ間で改善につなげる	アンケートの意見など職員間で話し改善を含めたミーティングをし記録に残し、スタッフ全員で情報共有する
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			ホームページで開示	事業所の活動などホームページに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		必要に応じて実施検討する	第三者までには至る事例がない。今後必要に応じて第三者委員との話し合いの場を導入していきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			施設内研修ではオンライン研修等後ミーティングにて報告情報共有をしている	つき1回土曜日の午後より研修を行い資質向上を図っている。今年は、コロナの為オンラインの実施
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			保護者との面談で評価、課題を話し合い計画を作成している後スタッフ間で共通理解のためミーティングを行う。	半年に1回の面談をし保護者ニーズに基づいた計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			個々に合わせた個別学習設けている	個別学習やグループ学習など適宜個々に応じて取り入れる
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			担当を中心に活動の進め方など共通の目標もって取り組む事をしている	各プログラムの担当を決めてプログラムを進めている。毎月のミーティングでプログラムをきめている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1		活動内容を日々の振り返りで反省点などがあれば次回に生かせるように話し合っている	担当職員によってプログラムの内容は工夫されている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	6		個々に合わせた支援内容を設定し支援	長期休みは学童も一緒なので設定が難しいので休日などは個々のプログラムに合う設定。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8			個別の課題や集団活動を踏まえた支援計画の作成をしている	個々に合わせた個別学習や集団活動の支援の取り組みを計画作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			毎日、開始前に支援内容のミーティングをしている	開始前にミーティングや日誌で共通理解を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			毎日業務終了後に支援の振り返りを行い記録をしている。次回につなげる	業務終了後、利用時の様子や全体内容を共有し記録する
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	4		問題点がある場合支援開始前全スタッフで話	日誌と記録とって改善につなげる
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			保護者との面談を相談事業所の計画をもと状況を聞き取り支援計画を見直す	相談支援を通して支援計画の見直しを立てている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		担当者会議で話し合った情報をスタッフと共有する	サビ管などが支援会議等に参加	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	2	日々学校や担任との連携がとれるようにお迎え時など担任との連携を図る	学校側と日々連絡を取り合える体制をしている お迎えの時引き継ぎの際担任と話し合いの場を設けている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			8	病気への理解に務め緊急時の確認は保護者と確認をしている	直接的には医療的ケア児が現在いないが母を通じて繋がっていて主治医等の連絡は取れていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2		引継ぎ後、スタッフにミーティングで情報共有する。	各館で情報共有あり。各館の引継ぎの際情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	7			必要性があれば情報提供などします
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			8	オンライン研修後にスタッフで情報共有の場設けている。	オンライン研修を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	1		児童館主催などのイベントに参加	当事業所は学童児童も同時に見守っている。 当児童館との交流
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8			協議会で話し合った内容をミーティングにて情報共有している	放課後等連絡協議会などにサビ管などが参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			連絡帳や電話やLINEにて保護者に伝える	連絡帳など伝えたりLINEなどで伝える。また、お迎え時にも伝える。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1		7	次年度は、取り組めるようにする。	実施していない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			新規や面談の際保護者に説明をする。	契約時に説明を行っている。支援内容などは面談の際に支援計画を保護者に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			相談内容をスタッフ間で話し合い必要に応じて保護者との面談の場を作り内容をスタッフで共有する	保護者からの悩みなどの相談がある時にはその都度話し合いの場を設けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			8	保護者の交流の場合め保護者参加イベントを開催する	今年は、コロナの為保護者同士の集まりの開催が出来ず年1回の保護者総会や行事などで保護者同士の関わりができなかった
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			苦情があった場合苦情受付つなげ適切に対応するようにまた、内容を情報共有する	苦情など管理者から施設長につなぎ対応しスタッフ間で話し合い迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			毎月の便りの配布に踏まえ電話やLINEにて対応	月一のお便りの発行やLINEなどで保護者に発信する。
	35	個人情報に十分注意している	8			施設内の情報は外部に漏れないように徹底	個人情報が入らないように職員で徹底する 面談の際に個人情報の同意書ももらっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			電話やお迎え時などわかりやすく伝えたり伝わる方法を利用者や保護者に合わせるように対応する。	お迎え時やLINEや手紙、電話などで情報を発信している
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている		7	1	地域住民が参加出来る事業所主催計画を立てていく	今年は、コロナの為訪問や招いたりできていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2	緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアルなど保護者会しおりにて知らせる	年度初めにオリエデション・保護者会にて周知や職員間でも共有しているが今年は、コロナのため実施出来ずしおりを配布している
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		災害の伝え方を避難経路実践など含め訓練をし伝えている	月1回災害について子供達と時間を設けている。年2回火災訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		より専門性を高めるため勉強会をする	年に1回施設内研修にて勉強会を行っている外部とのオンライン研修に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8		身体拘束に関しては利用児本人にの生命や身体を保護するための緊急を要する場合職員が共通認識を行い行った場合記録に残している	面談の際に保護者に説明し支援計画書に記載
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3	面談にてアレルギーがあるかを確認し対応	学校と共通の薬常備している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1	危険な事例がある際報告書に記載しミーティングを通し職員で共有している。	マニュアルを作成し職員間で共有している。